

図 書 館 報

第 55 号

発行 社高等学校

編集 図書委員会

小説「奇貨居くべし」と
漫画「キングダム」

教頭 後藤 司

アメトークで昨年キングダム芸人が話題になりました。「キングダム」は中国の春秋戦国時代、紀元前246〜221年、大將軍を指す信と秦の始皇帝となる政を中心に描かれた原泰久さんの漫画です。登場人物の呂不韋(りよふい)は政治家としては有能ではあるが、政や信の敵役で何を考えているかわからない悪役として描かれています。

この呂不韋が主人公である小説が、昨年の図書館報でも紹介した宮城谷昌光さんの「奇貨居くべし」です。この小説では呂不韋はイケメンのさわやかな人物、秦が歴史上初めて中国を統一

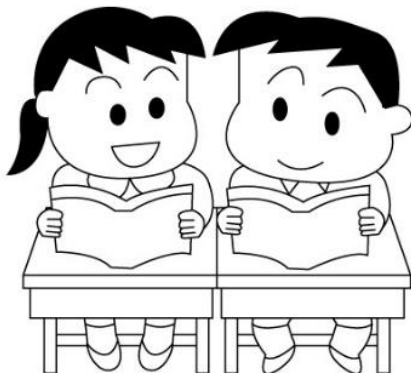
した王朝になるための基礎を築いた聡明な政治家として描かれています。

中国に残る歴史書によれば呂不韋は次のように書かれています。商人の子として生まれ各国で商売をして財産を築きました。趙(ちよう)という国で人質となっていた秦の王族の血を引く子楚という人物に出会います。このとき『これ奇貨なり居くべし(これは、掘り出し物だ。手元におくべきだ)』と言ったとされ、ここから「奇貨居くべし」という言葉が生まりました。呂不韋は子楚のサポーターとして様々な支援をしていき、子楚は秦の国王に、呂不韋は丞相(大統領のような役職)に上りつめます。子楚の子である政が歴史上初めて中国を統一する秦の始皇帝と

なりますが、呂不韋はその過程で失脚してしまいます。有名な歴史書「史記」によれば政は呂不韋の子であると記述されていますが…。

呂不韋を英雄視する「奇貨居くべし」を先に読んでいた私にとっては、呂不韋を悪役とする「キングダム」に違和感を覚えました。どちらも歴史書の記述をもとに、作家がそれぞれの考えや立場でストーリーを展開していくので、同じ人物でも全く異なる人物として描かれています。逆にそのことが歴史を題材にした小説や漫画の面白さとも言えます。日本の歴史小説でよくとりあげられる織田信長、明智光秀、徳川家康、坂本竜馬などにもそういった面白さがあります。でも描かれている人間やストーリーに魅力がなければ「キングダム芸人」のような言葉も生まれません。とにかく両方ともおもしろいです。

デジタル版の図書館報も今回で第三号となりました。



図書委員から本紹介

一年五組 篠原 由衣

道尾秀介『ソロモンの犬』

この本は、一人の幼い友人の突然の事故死の真相を追うミステリアスな小説です。主人公の秋内はその事故を目の当たりにしていました。事故の理由は幼い友人、陽介の飼い犬のオービーの突然の暴走。しかし現場にいた大学の友人の不可思議な言動から陽介の死が事故ではなく殺人なのではないかと考えます。なぜ陽介は事故死となったのか。又は誰が彼を殺したのか。全ての謎は犬の習性であり、この事件の解決の最大のカギになっています。

一年一組 細野 優奈

小路幸也『わたしとトムおじさん』

まず、たくさんある本の中からこの本を選んだ理由は本のイラストがかわいく、題名が気になったのでこの本にしました。

あらすじは、両親が別居し、小4の帆奈（はんな）は懐かしい建物が集まる観光施設の明治たてもの村で、元・引きこもりのトムおじさんと暮らし始めます。人と接することが苦手なおじさんとの日々を通して、人のつながりの温かさ

に触れていくお話です。

この本の魅力の一つ目は、暗さがなく、そんなに落ちこまないで読めることです。二つ目は、学校だけでは無い自分らしさを発揮できる場所がいかに大切かを教えてくれることです。

最後に、この本は読みやすく、心に響く言葉がたくさん詰まっているのでぜひ読んでみて下さい。

一年一組 石田 ヒカル

石川拓治『奇跡のリンゴ』

みなさんは無農薬のリンゴがあることを知っていますか。私は全く知りませんでした。無農薬で栽培することはとても難しく、全ての農家さんが、農薬を使っていると思っています。だからこの本の題名にとってもひかれました。

成功させるまでにたくさん

の苦労がありました。木村さんの土地は農薬を散布していないため、雑草が生い茂り、バッタが跳ね、カエルが鳴くという気味が悪い状況でした。それでも、山の中にドングリの木を見つけ、「なぜ、農薬を使われないのに成長しているんだ。」と疑問をもちました。

その中で、決定的なちがいを見つけました。とても単純で、どこにでもありふれたものでした。そこからは、すぐに自分の畑を確認し、また山へ行き観察しました。木村さんはアルバイトを成功へ。道をか

けのぼつていくのです。

この木村さんの経験は私たちの生活でも言えると思います。見方を変えるだけで得られる結果のちがいです。まるでテストのようだと思いましたが。根拠がちゃんと、式もかわる。式がかわると答えがかわるということ。そして、正解か不正解かはリンゴの木が教えてくれる。

栽培方法に正しい答えは1つだけではありません。まだ見つからない答えもあるはずです。その度に私たちは広い心と柔軟な考えで支え応援していくことが大切なのだと感じるようになりました。

一年三組 永井 潤

枯野瑛『終末なにしてますか？ 忙しいですか？ 救ってもらっていいですか？』

作中時点より500年以上も昔、地上では人間族と彼らから「怪物」と呼ばれたその他の種族たちが、領土を巡って争っていた。人

間族は、絶大な力を有する聖剣を使いこなす勇者たちの圧倒的な戦力によって、他の全てを敵に回してなお、地上の支配者として振る舞っていた。ついに、創造主である星神・エルクハルステンが人間族に宣戦を告げる。

これを受け、正規勇者・リーリア・アスブレイトとその他七名の勇者たちが集結、星神との決戦に臨んだ。その一人、準勇者・ヴィレム・クメシユは星神の守護につく三柱の地神の一人、黒燭公を激闘の末に降すも、呪いによって石と化してしまう。こうして彼は大切な「家族」と交わした、必ず帰るという約束を果たせなかった。

そして、石化した彼は知りえなかったことだが、それから一年と経たぬうち、突如出現した謎の存在「十七種の獣」により、人間族は、そして地上はあつけない滅ぼされてしまったのである。

一年四組 小山 元

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』

「君たちはどう生きるか」、この本はコペル君と本田潤一という15歳の少年が、学校生活を送るなかで経験したさまざまな出来事を通して、ものの見方や人間関係、社会の構造などについて観察し、考えを深めていくという内容。

作品の中では、彼の父の遺志を受け継いだ編集者の叔父さんがコペル君を導き、読者は、物語の終盤でコペル君が手にすることに「おじさんノート」を一足先に読みながら、コペル君の成長を追いかけていきます。叔父さんがコペル君に繰り返し伝えるのは、「自分で考える」ということ。したがって『君たちはどう生きるか』は、「いかに生きるべきか」をテーマにしながら、「どう生きるか」と読者に投げかけるようなスタイルがつけられています。

苦しみや感動は心が動いたら、その理由をきちんと見つめること。そして、自分がどう行動するかを人に頼らずに決定すること。それらが人生を生きるうえでの礎となることを、教えてくれる一冊です。

一年三組 上月 悠聖

「宝庫」

「海賊王に俺はなる!」という決めゼリフでおなじみの ONE PIECE CE。

小学四年生の時、兄のオスメで読んだ時の衝撃は言葉では言いあらわしようなのないものだった。

ONE PIECEとは主人公のモンキー・D・ルフィが海賊王になるために海の大秘宝「ワンピース」を目指し、仲間と共に旅をするという作品だ。この漫画のすごいところは、キャラクター設定などがとても細かく、登場人物一人一人に物語があること。また、話がスツと入ってく

るため、あきることがなく、毎回先が気になること。さらに ONE PIECE は友情・あきらめない心・努力を学ぶことが出き、感動できるのだ。三〇〇字では良さの全てを伝えることができません。ぜひ、読んでみて下さい!

一年六組 井上 紋華

山田詠美『ぼくは勉強が得意じゃない』

私が今紹介したい本は山田詠美さんの書いた「ぼくは勉強が得意じゃない」という本です。

なぜなら、理由はいくつもありますが、まずは題名がとても頭に残りやすいと思います。私自身、勉強が苦手なこともあり本を探していた時にとても頭に残りました。内容では、たくさんの人物が出てきますが秀美という男の子の主人公が作り出していくお話はおもしろい話ばかりです。周りの人と同じようにしなければ

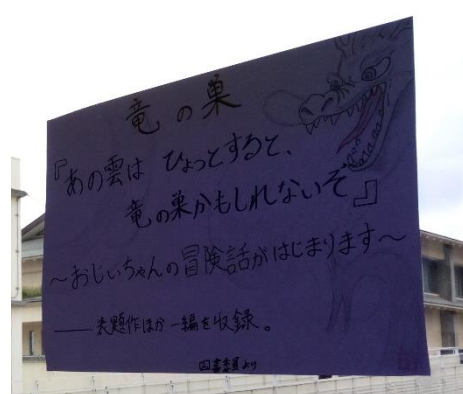
ばいけないのか、そう悩む時もあると思います。でも、そんな時に秀美は勉強ができなくても他にすてきなことがたくさんあると他の人とは変わったような、浮いているような行動をしながらも教えてくれると思います。

高校二年生ということもあって近い年齢で共感できることもたくさんあると思うので、ぜひ読んでみて下さい。



文化祭で図書紹介ポスターを掲示しました。

文化祭の際、図書委員有志が図書室の本を紹介するポスターを作成し、渡り廊下に掲示しました。来年度の文化祭においても、図書委員一同で読書推進活動に取り組み予定です。図書委員の展示にもご注目ください。



教員からメッセージ

初めて哲学する日に読む話

地歴公民科

石田 裕生

古代ギリシアの哲学者プラトンは哲人政治（イデアを認識する哲学者が行う政治）を理想としました。その哲人政治の理想を歴史上唯一現出させた人物がいます。

務の合間を縫って、自戒の言葉を断片的に書き留めたのが『自省録』です。哲学書といえ、いかにも難解なイメージがあります。しかし、『自省録』はマルクスの名言集です。気になる言葉から手軽に読むことができ、哲学入門書と評することができそうです。

「君の分として与えられた環境に自己を調和せしめよ。君のなかまとして運命づけられた人間を愛せ。ただし心からであるように。」

「自分の内を見よ。内にこそ善の泉があり、この泉は君がたえず掘り下げさえすれば、たえず湧き出るであらう。」

マルクスの哲学でもう一つ特筆すべきは、ヘレニズム時代以来のコスモポリタニズム（世界市民主義）の論理を持ち出している点です。

「私たちは協力するために生まれついた」という至極当然な事実をマルクスは改めて教えてくれているのです。マルクスの言うように、世界という競技場で一緒に競技をしているともいえる人々たちに対して、もう少し大目に見てあげませんか。互いに邪魔し合うのは自然に反することなのですから。多数あるはずですが、最後にマルクスはアウレリウス・アントニヌスの言葉を引用して擲筆します。

マルクス・アウレリウス・アントニヌス（一八一〜一八〇）です。マルクスはローマ帝国の五賢帝として著名な人物ですが、哲人皇帝の異名をとったストア派哲学者でもあります。本稿では、イギリスの功利主義者ジョン・ステュアート・ミルが「古代精神のもっとも高い倫理的産物」と激賞したマルクスの名著『自省録』について一瞥したいと思います。

さて、マルクスの思想を根底から規定しているのはストア派哲学です。ヘレニズム時代の哲学者ゼノンが創始したストア派哲学は、ストアックの語源にもなったように、禁欲主義と一般には訳されます。自然（宇宙を支配する理性）にかなった生活をするというのがストア派の信条であり、そのような考え方は『自省録』の端々にもみられます。『自省録』の中から、私が特に気に入った言葉を摘記してみます。

「君は多くの無用な悩みの種を切り捨てることのできる、なぜならばこれはまったく君の主観にのみ存在するからである。」

「善い人間のあり方如何について論ずるのはもういい加減で切り上げて善い人間になつたらどうだ。」

「私は協力をするために生まれついた」という至極当然な事実をマルクスは改めて教えてくれているのです。マルクスの言うように、世界という競技場で一緒に競技をしているともいえる人々たちに対して、もう少し大目に見てあげませんか。互いに邪魔し合うのは自然に反することなのですから。多数あるはずですが、最後にマルクスはアウレリウス・アントニヌスの言葉を引用して擲筆します。

「我々を導きうるものはないだろうか。一つ、ただ一つ、哲学である。」

元来マルクスは読書や思索を愛する平和主義者でしたが、ローマ皇帝として隣国パルティアやゲルマン民族との戦いに明け暮れざるを得ませんでした。その激

「これは不運ではない。しかしこれを気高く耐え忍ぶことは幸運である。」

「主観から生じる無用な悩みを捨て、理性に従って善く生きよ」ということです。自分自身では制御できない

「誰がなにをしようと、なにをいおうと、私は善くあらねばならない」と述べたように、マルクスはロー

物事の本質を追う

理科

荻野 拓哉

冬も終わりに近づいていますが、まだまだ寒い日が続いています。そんな日は、人は急いで家に帰って部屋で暖まりたいと思うもので、なかなか星空を見ようと思わないものです。しかし、ふとした時に見た冬の星空には、言葉では言い表せないような、そんな幻想的で神秘的な景色を私たちに見せてくれます。そのため、私は悩みやストレスがある時にたまに星空を眺めています。そういったものを吹き飛ばしてくれるくらいすばらしいものです。そんな、夜になるといつも私たちを照らしてくれる星々ですが、皆さんは星の正体を知っていますか。今回は図書館報ということで、そんな星を含めた天文学をわかりやすく説明している本を紹介したいと思います。

著者：渡部潤一『面白いほ

ど宇宙がわかる 15 の言の葉』この本は、天文学を天の文学として、普段なじみのある言葉から、天文学の様々な研究をふまえて理系が苦手な人にも読みやすい形で書かれた本です。例えば、それまで無名だった選手がそれまでの記録を塗り替えたりすると、メディアでは「新星のように現れた〇〇」といったフレーズでしばしば報道されます。このフレーズからすると、新星とはまるで新しい星が生まれたかのように感じますが、天文学的にはそのようなことはなく、実際には、星が一時的に爆発する現象を新星という。といった形で紹介されています。これ以外にも和歌を取り上げて説明するなど、いろいろな人が親しみやすい内容となっています。

さて、それでは星の正体ですが、星は月のように太陽の光が反射して光っていると考える人もいます。しかし、

星や木星といった太陽系内の一部の惑星で、実はほとんどが太陽系外の恒星で自ら太陽のように光を放っています。太陽系外にあるということは非常に遠くに存在しているということです。地球からの距離は、太陽が一億五千万キロメートルであるのに対して、最も近い恒星ケンタウルス座アルファ星でさえ、約四十兆キロメートル。その差は二十六万倍にも達します。つまり夜に私たちを照らしてくれている光は、非常に離れた場所に存在する太陽のような恒星から放たれた光なのです。

星に関していえば、まだまだ興味深い話があります。

星は太陽のように水素の核融合反応によってヘリウムを生成し、副産物として多量の光と熱を生み出しています。その核融合は炭素、酸素などを経て、鉄が生み出されるまで繰り返し続きます。そして、核融合が起これなくなると、星は最後の瞬間

を迎えるのです。超新星爆発です。聞いたことがある人も多いと思いますが、この超新星爆発により、周期

表で鉄よりも後にある元素は生み出されたのです。金や銀などは実は星のかけらなのです。さらに言えば、私たち生命も星のかけらと言えるでしょう。体を作っている物質のうち、水素を除けば、アミノ酸の主要構成物である、炭素・酸素・窒素は星の核融合で生まれた物質です。それらが、どこかの星の死に際に宇宙に拡散され、たまたま太陽系となり、たまたま地球が太陽から適度に離れた位置に生まれたために、海ができ生命が誕生したのです。

このように普段何気なく見ているものも、より深く知ることでもその見え方は変わってきます。私自身こういった本に影響されてきた部分も多々あると思います。皆さんも、普段あまり手を伸ばさないジャンルの内容だと思いますが、読んでみ

ることで、何か違う発見があるかもしれません。

《余談》

渡部潤一さんの最近の研究であるトランジット法を用いると、宇宙に数多存在する恒星のうち、地球のようにな水が存在し、生命の可能性のあるものは約4%だそうです。私たちが住む天の川銀河には一千億の恒星があるので、四十億もの第2の地球の可能性がありま

す。また、アンドロメダ銀河にいたっては、三千億もの恒星があるので、百二十億にもなるということです。

もしかすると本当に宇宙人はいるのかもしれないね。



本のある人生、ない人生

国語科

堤 晴香

「本」は嫌いですか？

「はい」と答えたあなたは、その気持ちはわからないこともありません。私は本が好きですが、「読まないといけない！」と思って読んだ本の内容が全然頭に入ってこなかったり、買った本を読み進めていきながら「これは失敗した！(おもしろくない)」と思うこともあったりします。(あくまで私の予想ですが、)本が嫌いな人は今あげたような経験を何度か繰り返して、「本」面白くないもの、難しいものという風に印象づけられてしまったのではないかと思えます。でもそれは、「本」が悪いのでも「あなた」が悪いのでもありません。本との「付き合い方」を間違っているだけです。

本との付き合い方

私が思う、正しい「本との

付き合い方」はこうです。

＊読みたい本を読む(表紙に

惹かれた、なんか面白そう、友達が読んでいた、この作家が好き…理由はなんでも構いません)

＊読みたい時に読む、やめ

たい時にやめる

＊面白くなくてもとりあえ

ず半分くらいまでは読んでみる(本の世界観に馴染むのには少し時間がかかります。小説は特に)

＊気軽に読む(何かを学ば

ないと！)「この本を読まない」と構えて読まない。肩の力を抜いて

本は、読み手を楽しませ

るために存在します。その方法に違いはあるかもしれませんが(読み手に知的好奇心を与えたり、読み手を空

想の世界に連れ出したり…)どの本も読み手を楽しませ

ることを第一に作られていると、私は思っています。だからみなさんも、音楽を聴くように、映画を観るよう

に、友達と会うように、本をただ楽しめばいいのです。

構える必要はありません。

「ことば」のある人生、ない人生

「ことば」と思考の関係

いきなりですが、みなさん

は、何かを考えたとき何を使って考えていますか？

「頭」とか「脳」とか答えた

人、もう少し掘り下げてみ

ましょう。頭や脳だけがあ

っても思考を組み立てるこ

とはできませんよね。そう、

「ことば」が必要です。なん

だ屁理屈じゃないかと思っ

たかもしれません、ことば

を使わずに意識して何かを

考えることはできません(た

めに何か考えてみてください

さい。必ずことばが必要に

なってきました)。そう考える

と、身についている(使いこ

なせる)ことばが少なく、

いろんなことを広く深く考

えることができないという

ことです。つまり、物事をさ

まざまな角度から見ること

ができず、一つの視点に縛

られてしまったり、物事を

深く考えることができず、

考えが浅いものになってし

まったりするということ

です。…それですつづく

怖いことだと思いません

か？自分が広く深く物事を

考えられているかどうか

なんて、普段から意識しな

いですよね。でももしか

たら。よく考えてみると、自

は浅い考え方しかできてい

ないのかもしれない。広い

視点で物事を見ることがで

きていないのかもしれない

ではここで、逆のことを考

えてみましょう。もし、こ

ばをたくさん身につけられ

ていたら…。いろんなこ

とを広く深く考えることが

できるということです。つ

まり、物事をさまざまな角

度から見ることができると

でたくさんアイディアを

出すことができたり、表面

的なことに惑わされること

なく、さまざまな可能性を

考慮しながら深く掘り下げ

て考えられたりするという

ことです。身についてい

る「ことば」の数で思考の広

がりが決まってくるのです。

「ことば」と表現の関係

相手に何か伝えたいこと

(気持ち)があつたとします。

たくさんしたことばを使っ

て説明するんだけど、なか

か伝わらない。もしくは、

自分の伝えたいことに(気持

ちに)、ぴったりと合うこと

ばが見つからない。そんな

どかしさに覚えはないで

か？ことばをたくさん身に

つけると、そんなもどかし

さに悩まされることも少

くなります。「これだ！」

ということばが自然に湧

がってきます。相手に誤

解を与えることなく、伝え

たいことを伝えるのにふ

さわいことを伝えるの

きやすいことばを選ぶこ

とができます。たとえ

びたりと合うことばを見

つけることができなかつた

としても、自分の持てる

たくさんのことばを尽く

し、説明することができます。

「ことば」は思考の広がり

だけでなく、表現の広がり

をも生み出してくれる

のです。

「ことば」と認識との関係

「認識」と聞くと急に難

しいことのように感じますが、そんなことはありません。思考の広がりや表現の広がり、根もとの部分にも関わってくる話だと思います。またまたいきなりですが、一言で「雨」と言っても、雨にはたくさん種類があることを知っていますか？……大量に降る雨を「大雨」と言い、少しだけ降る雨を「小雨」と言いますね。でも実はその「大雨」にもいろいろな種類があつて、例えば、篠(細い竹)をたばねて突き下ろすように激しく降る雨を「篠突く雨(しのつくあめ)」と言ったり、空を黒く(暗く)するほどのどしや降りの雨を「黒雨(こくう)」と言ったりします。また「小雨」も同じように、涙のようにほんのすこしだけ降る雨を「涙雨(なみだあめ)」と言ったり、霧のようにこまかい雨粒が降る雨を「霧雨(きりさめ)」と言ったりと、いろいろな種類に分類することができます。他にも、空が晴れているの

に降る雨を「狐の嫁入り(きつねのよめいり)」と言ったり、青葉若葉、芽生えて間もない葉に降り注ぐ雨を「翠雨(すいう)」と言ったり……あげだすときりがありません(雨を表現することばだけを千二百語集めた辞書があるくらいなのです)。一つ一つの雨を、もう一度想像してみてください。「ああ、もしかしてあの雨のことかな」と思い当たるものがないつかつか浮かんだことと思います。今あなたが思い浮かべた雨は今までのあなたであれば、「大雨だ」とか「小雨だ」とかの分類しかしていなかった雨でしょう。でも今は、その雨を細かく分類する「ことば」を知ってしまった。これは大きなことです。分類することばを知れば、そのものの自体の違いが自然に見えてくるようになる(認識できるようにする)のですから。私たちは「砂」の違いなんて気にしたことありませんが、古代エジプト人は砂を表すことばを

五十種類持つていたそうです。それはつまり、古代エジプト人には私たちが一言で「砂」と言っているものが「五十種類の違うもの」に見えていたということです。先ほどの「雨」の話にも同じことが言えます。一つだと認識していたものを、いくつかに分類する「ことば」を知ると、その結果、同じものだと思っていたものが違うものであったことに気づく。……こんな視点で自分の生きている世界を見ていく(認識していく)ことができたなら、世界はもっと奥行きのある、輝けるものになると思いませんか。

「ことば」を身につけるということ

辞書は「特定のことばの意味」を教えてください。でも、「こんな感じのことを言いたい。これにふさわしい言葉は？」というような疑問を解消してはくれません。そればかりは、自分の日々の生活の中で聞きながら身につけていくしかないのです。ことばを身につける手段はたくさんあります。人と話すこと、映画を観ること、音楽を聴くこと、そして、本を読むこと。どの手段をとるかはあなたの自由ですが、それでもわたしは「本」を一番に推します。誰かの考えや映像や音楽と結びつけられている「ことば」よりも、文章を読みながらあなた自身の想像力で組み立てられていく「ことば」の方があなた自身に馴染みやすいと感じているからです。まっさらな状態で入ってきた「ことば」のほうが、自分のものにしやすいと感じているからです。

おわりに

本との正しい付き合い方に始まり、「ことば」が思考の幅や表現の幅を決め、世界の奥深さにも気づかせてくれる、そしてその「ことば」を身につけるのには「本」が最適だとか何とか偉そうに言う言いました。でも私自身、「ことばを身につけないと！」とか思って本を読んでいるわけではありません。ただただ、おもしろいから読んでいるのです。やめられないのです。文字がたくさん並んでいるという見た目で、本を遠ざけてしまふのは本当にもったいないことです。「本との正しい付き合い方」を参考に、もう一度本と向き合ってみてあげてください。ひとたび作品世界に入り込み、その魅力に触れてしまうと本を開くことはできません。手が痺れるまで、夜が明けるまで、読んでしまうことがあります。自分でもびっくりするような自分に出会うことができます。今までは「本との付き合い方」が悪かっただけ。もっと肩の力を抜いて、自由に、好きな本を好きなだけ楽しんでみませんか？

おまけ

正直なことを言うと、ここを書くのを一番楽しみにしていました。私の好み

存分に発揮された内容にな
っています。もし少しでも
「読んでみたい」と思っ
てもらえたのなら、それ
に勝る喜びはありません。
『まずは手始めに短いお話からあなたに』

・『阪急電車』(有川浩)

オススメ度★★★★★

みなさんもよく知る、阪
急電車を舞台にして物語が
展開していきます。読み進
めていくうちに、それぞれ
の短編が登場人物を介して
次々と繋がっていきます。
人と人との繋がりが、何気
ない日々の素晴らしさに気
づき、毎日が輝いて見えて
くる一冊。

・『ちよこ』から仕事まで』

(北川恵海)★★★★☆

軽快な語り口で進んでいく
ため、非常に読みやすい一
冊となっています(文字数も
ページ数もちょうどいいく
らいです)。ブラック企業で
働き心身ともに衰弱してい
る「隆」と、彼を助けるため
に奔走する謎の男「ヤマモ
ト」。二人を追いかけるうち
に、自分は何のために働く

のか、どう生きていきたい
のか、答えが見つかるかも
しれません。

・スリルを求めるあなたに』

・『ギケン』(有川浩)★★★★★

・『陽気なギャングが地球を回す』

(伊坂幸太郎)★★★★☆

個性的な登場人物たちが、
自分を貫き通していく物語。
前者は、工科大学のとある
サークル所属の学生たちが、
信念を持つて全力で無茶を
します。後者は、それぞれに
特殊な能力を持った者たち
が、信念(それぞれの美意識)
を持つて銀行強盗をします。
スリルの中にもそれぞれの
熱い思いを感じ、胸が熱く
なる小説です。

・『トキメキを求めるあなたに』

・『図書館戦争』シリーズ

(有川浩)★★★★★

・『植物図鑑』(有川浩)★★★★☆

有川浩さんは登場人物を
生き生きと描くことに長け
ていて、またそこにトキメ
キを混ぜこませたら右に出
る者はいない！と勝手に思
っています。特に図書館戦
争シリーズは、登場人物そ

れぞれが生き生きと表現さ
れすぎていて、まるで自分
の友達のような親しみを感じ
てしまいます。応援せず
にはいられなくなってしまう
います。何かを頑張りたいと
とき、元気をもらいたいた
き、是非手にとってもらい
たい小説です。

・『人のあたたかさに触れたいときに』

・①『青空の卵』②『仔羊
の巣』③『動物園の鳥』

(坂本司)★★★★★

「引きこもり探偵シリ
ーズ」と呼ばれ親しまれてい
る小説になります。その名
の通り、引きこもりの主人
公「鳥井真一」とその親友
「坂本司」が日常生活で遭
遇した不思議な事件を解決
に導いていく物語です。人
の死なない物語と二人の友
情が、あたたかな余韻を残
してくる一冊。

・『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

(東野圭吾)★★★★★

悪事を働いた三人が逃げ
込んだ古い家。そこはかつ
て悩み相談を請け負ってい
た雑貨店だった。廃業して

いるはずの店内に次々と悩
み相談の手紙が落ちてくる。
―何の関係もないように見
える一つ一つの短編が繋が
っていき、少しずつナミヤ
雑貨店に関する謎が解き明
かされていきます。一人一
人のとった行動が誰かに大
きな影響を及ぼし、人生さ
えも変えてゆく。人と人と
の繋がりに気づかせてくれ
る一冊。

・『ファンタジーにどっぷりつかると』

・八咫鳥シリーズ①『鳥に単
は似合わない』②『鳥は主
を選ばない』③『黄金の鳥』

④『空棺の鳥』⑤『玉依姫』
⑥『弥栄の鳥』(阿部智
里)★★★★★

・①『ハリーポッターと賢者の石』

(JKローリング)★★★★★

・守人シリーズ①『精霊の守人』

(上橋菜穂子)★★★★★

・『狐笛のあなた』

(上橋菜穂子)★★★★★

どれも一番面白いとか決
められないくらい面白いで
す。長編(『狐笛のあなた』
は一卷で完結です)の魅力
は、長く続く分だけ作品世

界に深く馴染み、どっぷり
つかることができる点にあ
ると思っています。「ラスト
が見たい。でも終わらない
でほしい」と、それはそれ
もうワクワクしながら読め
てしまいます。ハリーポッ
ターや守人シリーズは映
像化されているので知って
いる人もいるかと思いますが、映像では表現されてい
ない魅力に出会い、また改
めて好きになると約束でき
ます。どれもこれもあなた
の期待を良い意味で裏切っ
てくれる、読み進めずには
いられなくなる小説たち
なっています(特に八咫鳥シ
リーズの第一巻はラストが
衝撃だから！是非最後まで
読んでください。そしてま
た二巻目以降はがらりと雰
囲気が変わり、物語が展開
されていきます)。損はさせ
ません！是非手にとってみ
てください。